

肺炎の検査



肺炎とは

肺炎とは、主に細菌やウィルスが肺に感染して炎症を起こす病気です。がん、心臓病、脳卒中に続いて、日本人の死亡原因の第4位です。肺炎で亡くなる患者さんの9割以上が65才以上の高齢者です。年齢別死亡原因で、肺炎は85歳以上では第2位、95歳以上では第1位となっています。

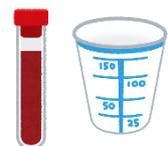
肺炎の症状

高熱、咳、痰、呼吸困難のほか、食欲不振、倦怠感、筋肉痛、頭痛などの症状が出ることがあります。

肺炎であるかどうかを調べる検査

【画像検査】・・・X線検査 CT検査

【血液検査】・・・血液中のCRP、白血球数、赤沈、酸素濃度



肺炎の原因を調べる検査

【細菌検査】 喀痰や鼻腔拭い液を培養して、微生物を特定する検査

【迅速検査】 鼻腔や咽頭から採取した検体でインフルエンザウィルスや新型コロナウイルスを推定する検査、尿から肺炎球菌やレジオネラなどを推定する検査



肺炎の治療

病原微生物を死滅させる抗菌薬が中心となります。

肺その他、様々な症状をやわらげるために、痰を鎮める薬、熱を下げる解熱薬、痰を出しやすくする薬、息苦しさをやわらげる薬など、症状に応じて処方されます。



高齢者の方や慢性の病気を持っている方などは、健康な方に比べて肺炎になりやすく、治りにくい傾向があるので、注意が必要です。治療が遅れると、重症化し命に関わることもあります。早めに病院を受診して治療を受けることが重要です。現在、厚生労働省では65歳以上を対象に、高齢者肺炎球菌ワクチンの定期接種を実施しています。